

# AFICAT ニュースレター(日本第6号)

2022年11月22日発行

第6号では8月下旬から10月初旬までのガーナ、ケニア、タンザニアにおける活動についてご紹介します。ガーナは(株)荏原製作所さま、(株)ケツト科学研究所さま、JICA が実施するガーナ国稲作生産性向上プロジェクト(GRIP)の活動について、ケニアはAFICAT 稼働に向けた協議について、タンザニアは本田技研工業(株)さまや(株)ケツト科学研究所さまの活動、(株)サタケさまの製品を導入する精米プラントについて紹介いたします。

## ガーナ:(株)荏原製作所さま 現地視察

9月上旬から中旬にかけて(株)荏原製作所さま(以下、荏原製作所)のガーナ渡航に合わせて、AFICAT 専門家チームは関係機関と面談を開催しました。面談先は食料農業省の農業機械化サービス局(AESD)、作物サービス局(DCS)、ガーナ灌漑開発公社(GIDA)の政府機関や、民間商業銀行である Agricultural Development Bank(ADB)、教育機関のクワメ・エンクルマ科学技術大学(KNUST)です。



訪問機関との協議の様子(左上: AESD、右上: DCS、左下: Dawhenya 灌漑地区、右下: GIDA)

面談ではガーナの農業セクターの概況や、灌漑用ポンプ市場の様子、公共調達に関する情報などを聞き取りました。また、ADB からは同行の農業関連ローンの提供状況や、KNUST からは大学の研究や設備に関する説明を受けるとともに、AFICAT を通じた将来的な連携可能性を協議し、両機関との関係構築にもつなげることができました。この他に GIDA が管轄する

Dawhenya 灌漑地区(首都 Accra から約 40km 東方に所在。耕作地面積は約 200ha)を訪れ、現場に導入されているポンプ施設を見学しました。

協議中、どの機関からも灌漑用ポンプの重要性について話があがりました。現地では用水路からの取水は電気の供給エリアが限られており、かつ、初期費用が安いエンジン式が多く選択されている。他方、電気モーター式は、初期費用の高さを指摘する意見が多く聞かれました。ただし、燃料費が高騰していることや、モーター式は耐久性やメンテナンス面では優れていることも認識されており、価格に見合った優位性を説明し続けることが今後の導入のきっかけのひとつになるかもしれません。今回、荏原製作所の辻様から AFICAT を利用されたご感想やご意見を頂戴しましたのでご紹介します。

## 【AFICAT 活用企業の声#1 荏原製作所 辻様】



Dawhenya 灌漑地区に導入されているソーラーポンプ灌漑施設を見学(写真左から2人目が辻氏)

今回 AFICAT にガーナの農業セクター関係者との面談をアレンジしていただき、非常に助かりました。農業省や GIDA といった政府機関の要職の方と関係を築いたり、誰にコンタクトしてよいか分からなかった金融機関との協議を実現したりすることができ、実りある出張となりました。弊社だけではこのような関係を短期間で作ることは困難でした。AFICAT と政府機関との間で既に良好な関係が構築されていたため、とても効率よく訪問でき、さらに本音のお話を聞くことができ感謝しています。また、今回 AFICAT は JICA と本邦企業と現地をつなぐ架け橋であるという印象を受けました。AFICAT を通じて、JICA との連携も強化していき



いと考えています。

今後のビジネス展開に向けて、アフターサービス体制の構築など考えるべき課題は多いため、引き続き AFICAT の支援に期待しています。パイロット期間は 2023 年末までとのことですが、弊社のような機械を取り扱う企業としては、ビジネス展開まで時間が掛かるため、僭越ながら 2024 年以降も継続した長期的な支援を希望します。



同じく Dawhenya 灌漑地区にて。写真右が辻氏

このような形で、AFICAT では本邦企業製品の情報発信やデモンストレーション実施のお手伝いの他にも、現地訪問先のアレンジ、可能な範囲での同行も承っております。また、日本人専門家が現地を不在にしている間も、現地に在住しているローカルスタッフが代わって対応いたします。AFICAT 対象 5 カ国へのご出張や現地視察の準備などでお困りの際は、お気軽に本ニュースレター末尾の連絡先までお問い合わせください。

### ガーナ:(株)ケツト科学研究所さま セミナー

(株)ケツト科学研究所さま(以下、ケツト)は実機を用いたオンラインデモ・セミナーを 2023 年 2 月に予定しており、同セミナーに向けたオンライン形式の講義と意見交換会を 9 月 2 日に開催しました。当日は、食料農業省関係者、ガーナ標準化機構、GIDA、民間流通業者、精米協会関係者など、約 40 名が Zoom を使ってセミナーに参加しました。

当日は、「穀物水分の重要性」「穀物水分測定の制度とトレーサビリティ」などをテーマに、穀物水分計、白度計、テスト用粉摺り機などの製品を紹介しました。参加者からは、「適切な機器を使用し、正しい手順で水分測定を行うことの重要性と関係機関が果たす役



割を実感した」「こうした技術の導入はガーナの自給率目標達成につながるので、さらに一歩進んで農家や他のバリューチェーンアクターに製品を使用してもらおうべき」などの前向きな意見が聞かれました。

今後、セミナーを通じて関係ができた参加者同士で連絡を取りつつ、前述した 2023 年 2 月に開催予定の実機を用いたオンラインデモ・セミナーの準備を進めています。



オンラインセミナーの様子

### ガーナ国稲作生産性向上プロジェクト(GRIP)

ガーナで実施中の JICA 技術協力プロジェクト「稲作生産性向上プロジェクト (Ghana Rice Production Improvement Project: 通称 GRIP)」について紹介します。GRIP は 5 年間の技術協力プロジェクトとして 2022 年 3 月に開始され、対象郡(天水稲作地域)および対象灌漑地区(Kpong、Weta、Bontanga、Tono)におけるコメ生産量の増加を目的として様々な活動を実施しています。JICA がガーナのコメ生産性向上を目的に実施してきた 2 つの技術協力プロジェクト、① 天水稲作持続的開発プロジェクトフェーズ 2(2016 年~2021 年)と②ポン灌漑地区における小規模農家市場志向型農業支援・民間セクター連携強化プロジェクト(2016 年~2021 年)がガーナ政府から高く評価され、各プロジェクトで確立された天水、灌漑稲作技術をより広い地域に普及するために GRIP が要請されました。AFICAT では今後本邦農業資機材を用いた GRIP の現地活動取材するとともに、連携できる活動があれば連携していく予定です。GRIP の概要などは以下のリンク先で詳しく紹介されています。

<https://www.jica.go.jp/project/ghana/013/outline/index.html>

<https://www.jica.go.jp/project/ghana/013/news/20220505.html>

GRIP のプロジェクト概要・活動紹介

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1400294/index.html>

ガーナ国天水稲作持続的開発プロジェクトフェーズ 2 活動紹介



<https://www.jica.go.jp/project/ghana/011/outline/index.html>  
ボン灌漑地区における小規模農家市場志向型農業支援・民間セクター連携強化プロジェクト活動紹介

## ケニアで AFICAT 活動を開始しました！

AFICAT を稼働する 5 カ国のうち、最後の訪問国となったのがケニアです。ケニアでは 9 月 19 日から約 2 週間の予定で現地調査を実施しました。他の 4 カ国とは異なり、先行調査で現地調査が実施されておらず、様々な現地関係者と初めて協議することから、ワクワクすると同時に緊張感もありました。

JICA から農業畜産水産組合省に派遣されている農業機械化アドバイザーと一緒に AFICAT をどう稼働できるか、協議を重ねてきました。農業畜産水産組合省の農業機械化担当次官と協議した結果、AFICAT をできるだけ早く稼働するように、と力強い言葉をいただき、ケニアでも AFICAT の稼働が合意されました。

**【ケニア現地情報#1】** ケニアの農業は雇用の 60%、GDP の 27%、輸出額の 65% を占める基幹産業です。耕地は 580 万 ha で、主な農産物は 2018 年時点で、茶(49 万トン)、サトウキビ(526 万トン)、コーヒー豆(4 万トン)、トウモロコシ(410 万トン)です。茶は輸出货量世界第 1 位で、生産量世界第 4 位を誇っています。他には切り花や園芸作物の生産も盛んです。コメは食糧栄養安全保障戦略において優先作物とされており、2018 年時点で約 17 万トンが生産されています。栽培面積は約 3.5 万 ha で、このうち約 7 割が灌漑地です。国内最大の生産地はムエア灌漑地区で、1980 年から現在に至るまで日本の支援が実施されています。農業機械の利用状況は作物・農地等によってさまざまですが、大規模農業もしくは輸出産品を生産し集約農業を行っている農家は比較的機械化が進んでいます。一方で、約 65% を占める小規模農家の機械化はあまり進んでおらず、ケニア農業畜産水産共同組合省は 2021 年に農業機械化戦略を作成し、機械化振興を図っています。トラクター耕起、コンバイン収穫、精米は概ね機械化されている一方で、代掻き、播種、田植え、除草、施肥、除草剤散布の多くは機械化されていません。トラクター及びコンバインは、一般的に農家組織あるいはサービスプロバイダーと呼ばれる農機を利用した請負作業を実施する組織が保有しています。(出所:[AFICAT ウェブサイト 各国情報 ケニア](#))



ケニアで訪問した政府機関や民間企業、農業機械化の現状などに関しては、次号以降で共有させていただきます。



ケニア国農業畜産水産組合省農業機械化担当次官との協議

## タンザニア:本田技研工業(株)さま 性能テスト

本田技研工業(株)さま(以下、Honda)は、9 月上旬からタンザニアの AFICAT 拠点であるキリマンジャロ農業研修センター(KATC)の圃場で、AFICAT 現地スタッフ、KATC 職員と共に、車軸式耕うん機、背負式動力噴霧器、ポンプ、刈払機の性能テストを行っています。アフリカの土壌や作物の収穫などの各工程に Honda 製品を使用した場合、作業効率やどの程度向上したか、費用逓減にどの程度貢献するか、耐久性はどの程度あるか等のデータを取り、結果を政府関係者や普及員、農家などに共有することです。活動は、現在も継続しています。



KATC での作業テストの様子

## タンザニア:(株)ケツト科学研究所さま セミナー

タンザニアで 2 回目となるケツトのオンラインセミナーを 9 月 9 日に実施しました。前は 5 月に KATC で KATC 職員および農業省本省の職員を対象に実施しました。セミナーは、首都ドドマの農業省本省のセミナ



一室で実機を用いて実施しました。農業省農業機械化付加価値局の局長である Anna 氏に開会挨拶をしていただき、農業省傘下の様々な局から職員が対面で参加したほか、オンラインでタンザニア基準局から3名、タンザニア民間セクター財団(TPSF)から1名の、合計24名が参加しました。TPSFはタンザニア国内の商工会議所や協会、民間企業がメンバーとなっている組織で、AFICATにおいては本邦企業のパートナー候補となるタンザニア企業の紹介が期待されます。セミナーに参加したTPSFの局長からは、ケツト製品の重要性の理解と共に、代理店候補をTPSFが紹介するといった、協力的な姿勢を示す力強いコメントもいただきました。終了後に実施したアンケートでは、「セミナーが役に立った」「収穫穀物の水分管理やトレーサビリティの重要性を理解した」と回答があった。更なる研修を期待する声もあり、今後、ケツトがタンザニアでどのような活動を希望するか確認し、今後も活動を支援していきます。



タンザニア農業省本省セミナー室で実施されたケツトセミナー

### タンザニア:(株)サタケさま 精米プラント視察

シンガポールに拠点をおく Wilmar International が、タンザニアにも精米プラントを保有しており、そこでは(株)サタケさま(以下、サタケ)の精米機を導入しているということを聞きました。タンザニアの Wilmar にお願したところ、施設見学させていただけることになり、精米プラントを訪問して話を聞いてきました。

Wilmar の精米プラントはタンザニアのコメ生産地のひとつでもある Morogoro というところにあります。アフリカでは中国製の精米機が多く使われていることもあり、サタケ製を選んだ理由を聞いてみました。「サタケはコメ/精米のリーディング・カンパニーであり、その製品は使い勝手が良く(ユーザーフレンドリー)で、調節できる幅が広く効率的に精米できる」ということでした。現在、24時間稼働すると320トン/日进行处理することができ、予定されている拡張工事が終



わると 1,200 トン/日进行处理できるようになり、1カ所の精米プラントとしてはアフリカ大陸で最大規模になるということです。施設内での写真撮影は禁止されていましたが、General Manager と精米プラント前で写真を撮影させていただきました。



Morogoro にある Wilmar の精米プラント

<https://www.youtube.com/watch?v=2dEEiUzgG70>

MW Rice Millers Ltd, Morogoro

### 編集後記

今年の3月に現地活動を開始して、ついにタンザニア、ナイジェリア、ガーナ、コートジボワール、ケニアの5カ国で活動が始まりました。これも今までご協力いただいた、本邦企業、各関係機関、現地政府、JICA 各国事務所、JICA 本部の皆様のおかげです。誠にありがとうございます。このニュースレターでは AFICAT のことだけでなく、各国の現状や、各プロジェクトの状況などをより多くの方々へ伝えたいと思い作成しております。伝えきれないことも多いですが、一つでも多く発信できるように続けます。

新たに AFICAT をご活用いただける本邦企業の方を、随時募集しております。AFICAT にご関心がある方は、お気軽に以下の連絡先にお問い合わせください。

編集・問合せ

(株)かいほつマネジメント・コンサルティング

狩野・魚住・弓削田

Tel: 03-5791-5083 Mail: [aficat.team@kmcinc.co.jp](mailto:aficat.team@kmcinc.co.jp)

AFICAT HP:

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※AFICAT のご活用に関するお問い合わせも、上記の宛先までご連絡下さい。